



<p>(51) 国際特許分類6 A61K 39/395, 45/00, 38/20, 38/21</p>	<p>A1</p>	<p>(11) 国際公開番号 WO99/18997</p> <p>(43) 国際公開日 1999年4月22日 (22.04.99)</p>
<p>(21) 国際出願番号 PCT/JP98/04645</p> <p>(22) 国際出願日 1998年10月14日 (14.10.98)</p> <p>(30) 優先権データ 特願平9/280759 1997年10月14日 (14.10.97) JP 特願平10/222024 1998年8月5日 (05.08.98) JP</p> <p>(71) 出願人 (米国を除くすべての指定国について) 中外製薬株式会社 (CHUGAI SEIYAKU KABUSHIKI KAISHA)[JP/JP] 〒115-8543 東京都北区浮間5丁目5番1号 Tokyo, (JP)</p> <p>(72) 発明者; および (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ) 小阪昌明(KOSAKA, Masaaki)[JP/JP] 〒770-8075 徳島県徳島市八万町千鳥11-10 Tokushima, (JP) 小石原保夫(KOISHIHARA, Yasuo)[JP/JP] 〒412-8513 静岡県御殿場市駒門1丁目135番地 中外製薬株式会社内 Shizuoka, (JP)</p>	<p>(74) 代理人 弁理士 石田 敏, 外(ISHIDA, Takashi et al.) 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル 青和特許法律事務所 Tokyo, (JP)</p> <p>(81) 指定国 AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CH, CN, CU, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IS, JP, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MD, MG, MK, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZW, ARIPO特許 (GH, GM, KE, LS, MW, SD, SZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), 欧州特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).</p> <p>添付公開書類 国際調査報告書</p>	
<p>(54) Title: POTENTIATOR FOR ANTIBODY AGAINST LYMPHOID TUMOR</p> <p>(54) 発明の名称 リンパ球系腫瘍に対する抗体の作用増強剤</p> <p>(57) Abstract A potentiator for an antibody containing a biological response modifier as the efficacious component, binding specifically to the protein having the amino acid sequence represented by SEQ ID NO:1 for lymphatic disease remedy, and having a cytotoxic activity.</p>		

請 求 の 範 囲

1. 生体応答修飾剤を有効成分として含有する、リンパ球系腫瘍の治療のための、配列番号5に示されるアミノ酸配列を有する蛋白質に特異的に結合し、かつ細胞傷害活性を有する抗体の作用増強剤。
2. 配列番号5に示されるアミノ酸配列を有する蛋白質に特異的に結合し、かつ細胞傷害活性を有する抗体を有効成分として含有する、リンパ球系腫瘍の治療のための生体応答修飾剤の作用増強剤。
3. リンパ球系腫瘍がT細胞腫瘍である、請求項1又は2に記載の作用増強剤。
4. リンパ球系腫瘍がB細胞腫瘍である、請求項1又は2に記載の作用増強剤。
5. B細胞腫瘍が骨髓腫である請求項4に記載の作用増強剤。
6. 抗体がモノクローナル抗体である、請求項1又は2に記載の作用増強剤。
7. 細胞傷害活性がADCC活性である、請求項1又は2に記載の作用増強剤。
8. 抗体がヒト抗体定常領域C γ を有する、請求項6に記載の作用増強剤。
9. ヒト抗体定常領域C γ がC γ 1またはC γ 3である、請求項8に記載の作用増強剤。
10. 抗体が抗HM1.24抗体である、請求項6に記載の作用増強剤。
11. 抗体がキメラ抗体またはヒト型化抗体である、請求項6に記載の作用増強剤。
12. 抗体がキメラ抗HM1.24抗体である、請求項10に記載の作用増強剤。

13. 抗体がヒト型化抗HM1.24抗体である、請求項10に記載の作用増強剤。

14. 抗体が抗HM1.24抗体が認識するエピトープと特異的に結合する、請求項1～13のいずれか1項に記載の作用増強剤。

15. 生体応答修飾剤が、インターフェロン、OK432、レンチナン、ソニフィラン、ペスタチン、クレスチン、N-CWS、ラバミゾール、G-CSF、IL-2、IL-10、IL-12又はIL-15である、請求項1～14のいずれか1項に記載の作用増強剤。

16. 抗体が、E/T比が50の条件下でADCC活性が25%を下まわる細胞傷害活性を有する、請求項1～15のいずれか1項に記載の作用増強剤。

17. ADCC活性をCr（クロム）リリースアッセイにより測定する、請求項16に記載の作用増強剤。

18. ex vivo で使用される、請求項1～17のいずれか1項に記載の作用増強剤。

19. 配列番号1に示されるアミノ酸配列を有する蛋白質に特異的に結合し、かつ細胞傷害活性を有する抗体と生体応答修飾剤から成るリンパ球系腫瘍の治療剤。